三重県総合文化センター情報誌

おかげさまで、開館20周年。
「ありがとう」そして
これからも「よろしく」

vol.105
2014
8 9 10
イベントインフォメーション
2014年8月～10月
三重県総合文化センター
主催事業のお知らせ

キャラメルボックス 2014 Greeting Theater

無伴奏ソナタ

インタビュー
演劇集団キャラメルボックス
成井豊 & 多田直人

Photo 伊東和則（2012年初演）

この秋、初めて文化会館で演劇を上演する演劇集団キャラメルボックス『無伴奏ソナタ』の脚本・演出家 成井豊さんと主演の多田直人さんにお話を伺いました。

インタビュー 成井豊 Narui Yutaka（写真右）

――成井さんにとって、オースン・スコット・カードの『無伴奏ソナタ』はSF短編小説の中でベストワンだと伺いましたが、脚本を執筆する段階での手応えや、初演時（2012年）のお客様の反応はいかがでしたか?

自分で言うのもなんですが、近年のキャラメルボックスの作品の中でも1、2を争うほどの傑作になったと思います。もちろん、それは原作がすばらしいから。そして、役者たちがすばらしい演技とチームワークで、この作品を立体化してくれたから。

おかげで、2012年の初演の時は短期間の公演だったにもかかわらず、お客さんから圧倒的な好評をいただくことができました。脚本の執筆はただただ楽しく、何の苦労もありませんでした。だって、大好きな『無伴奏ソナタ』を、自分の手で芝居にできるんですから。

原作との最大の違いは、各章に語り手を設定したことだと思いますが、これは前からやりたいと思っていたことで、『無伴奏ソナタ』で実現できて、とてもうれしかった。脚本が書き上がった時点で、こいつは凄い芝居になるぞと思いました。自画自賛ですみません。

――今回は好評を得ての再演だと伺いましたが、初演でうまくいったところと、難しかったところ、また、どのような部分がお客様に好評だったのでしょうか。

うまくいったのは、キャスティングです。もちろん、あて書きはしたのですが、役者たちはそれぞれの役を、私の予想以上に魅力的にしてくれました。

最も苦労したのは、音楽。ミュージカルではないけど、歌う場面がたくさんあるので、稽古が大変でした。が、これも役者たちの頑張りで、予想以上に見応え、聞き応えがある場面に仕上がりました。私は毎ステージ、客席で感動しながら見ていました。

この作品の魅力は、何と言っても主人公のクリスチャン・ハロルドセンの生き方だと思います。何度禁じられても、罰せられても、音楽を作り続ける。こんな一途な人生は、現実にはありえないかもしれない。だって、あまりにも辛すぎる。しかし、彼の挫けない生き方は、見る者の心を激しく揺さぶる。私が原作を読んで最も感動したのはまさにこの部分で、それが芝居でもしっかり描くことができて、とても満足しています。多田直人はクリスチャン・ハロルドセンという役を見事に体現してくれました。

――初めての三重公演とのことで、キャラメルボックスを初めて観るお客様も多いと思います。ずばり、キャラメルボックスの魅力を教えてください。

キャラメルボックスの最大の魅力は、挑戦する劇団であること。劇団創立から29年経っても、いまだに新しいことに挑戦し続けています。『無伴奏ソナタ』は、アメリカのSF小説を舞台化すること、新しい音楽劇を生み出すこと、この二つに挑戦しています。挑戦には失敗のリスクがある。が、リスクを乗り越えることによって、人は大きく成長する。キャラメルボックスという劇団もそうやって成長し続けてきました。

――三重県について知っていることや、なにか印象があれば教えてください。

名古屋公演のたびに、三重県の方も岐阜県の方もたくさん見に来てくださるので、あまり区別して考えたことはありませんでした。が、三重県は近年、演劇が盛んになってきていると聞いています。キャラメルボックスの芝居を見て、「もっと芝居を見よう」「自分も芝居をやろう」と思う人が一人でも増えてくれたら、うれしいです。

――三重県の皆さんにメッセージをお願いします。

キャラメルボックスは29年前の旗揚げ以来、普段芝居を見ない人でも楽しめる芝居を作り続けてきました。『無伴奏ソナタ』もそれは同じで、とてもわかりやすくて、とてもおもしろくて、とても深い芝居です。どうか気軽に足をお運びください。絶対に損はさせません!

インタビュー 多田直人 Tada Naoto（写真左）

――初演の時に比べて、作品や役に対する気持ちの変化はありましたか?

入団して11年目になりますが、再演で同じ役をやるというのはこれが初めてです。ですので、そういう難しさはあると思っています。新しく役を解釈したいと思っても、どうしても前の公演のときの感覚が蘇ってきたり、台詞の言い回しなども固定されてしまっていたり。しかし、そのへんはあまり固執せず、「前回の公演の続きから始まるんだ」そして「もっともっと深めていくんだ」という気持ちで臨みたいと思っています。とにかく初演の評判が良くて、再演に当たっての期待は大きいと思いますから、その期待にお応えできるよう、精いっぱい勤め上げたいです。

――初演から2年という、異例の早さでの再演ですが、どのように感じていますか?

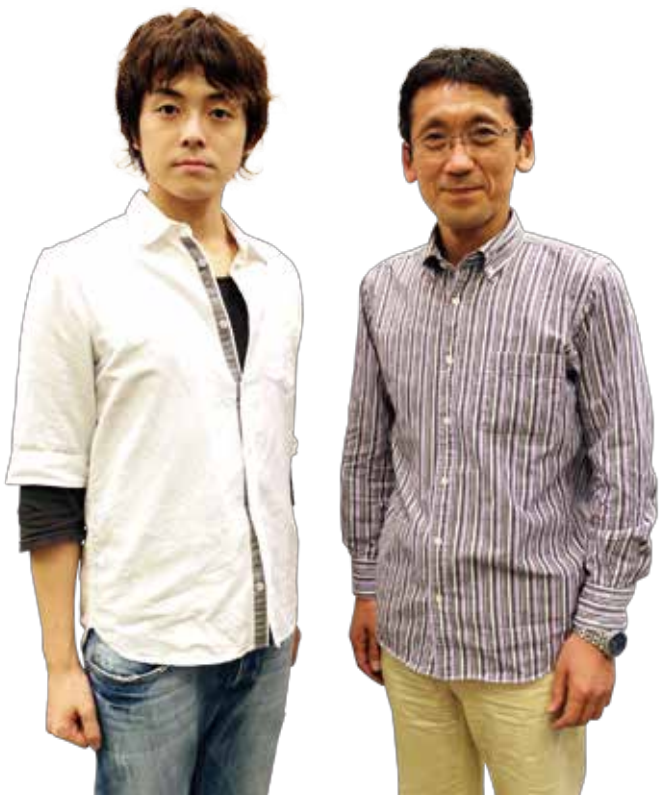
初演は劇団の番外公演という扱いで、公演期間が短く、たくさんのお客様に見ていただくことができませんでした。ですから再演できることがとても嬉しいです。面白い作品というのは、いつ、どんなとき見ても面白いと思うのです。まだ見ていない方がいらっしゃるのであれば、どんどん再演して見てもらう機会を作ったほうがいいと個人的には思っています。そして、『無伴奏ソナタ』という作品には、その力があると信じています。

――三重県について知っていることや、なにか印象があれば教えてください。

三重と言えば「てこね寿司屋」。5,000万円で買えて収益率が80%という優良物件なんです。（ゲーム「桃太郎電鉄」での話。ゲームが大好きなんです。）

――三重県の皆さんにメッセージをお願いします。

『無伴奏ソナタ』は、音楽を愛する人、モノ創りに携わっている人にとっては特に胸を打つ作品だと思います。「自分にとってのアイデンティティとはなにか」というのを強烈に語りかけてきます。……とまぁ、そんな難しいことは考えず、是非劇場にいらして、頭ではなく、心で、感じていただけたら嬉しいです。劇場でお待ちしています!



PROFILE

成井豊（なるい ゆたか）
1961年、埼玉県飯能市生まれ。早稲田大学第一文学部文芸専攻卒業。1985年、加藤昌史、真柴あずきらと演劇集団キャラメルボックスを創立。現在は、同劇団で脚本・演出を担当するほか、映像の脚本、小説を執筆。現在はBS11『宮崎美子のすずらん本屋堂』にゲストコメンテーターとしてレギュラー出演するなど、多方面で活躍中。

多田直人（ただ なおと）
1983年、北海道釧路市生まれ。2004年、演劇集団キャラメルボックスに入団。繊細な演技を評価され多くの作品で主演を務めるなど、劇団を代表する役者として期待される若手俳優。また明治座、銀河劇場等の外部公演にも多数出演。自身のプロデュース公演として独り芝居『審判』に挑戦するなど、活躍の場を広げている。

キャラメルボックス 2014 Greeting Theater
『無伴奏ソナタ』
原作／オースン・スコット・カード
翻訳／金子司　脚本・演出／成井豊
平成26年10月5日（日） 14:00（13:30開場）
三重県文化会館　中ホール
全席指定 1階席4,500円、2階席3,500円
問三重県文化会館チケットカウンター
059-233-1122